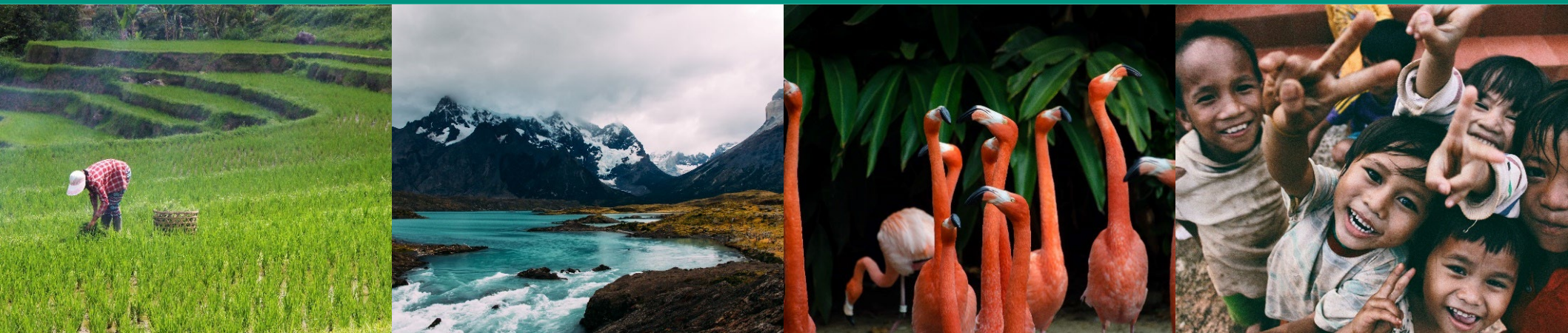


IPBES

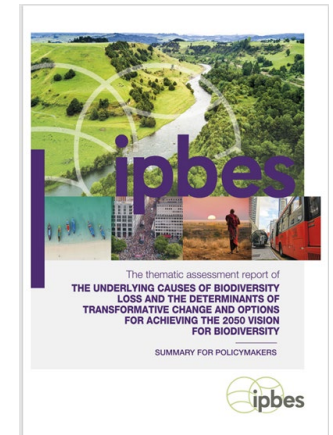
生物多様性の損失の根本的要因、
変革の決定要因及び
生物多様性2050ビジョン達成のための
オプションに関するテーマ別
評価報告書（社会変革アセスメント）
政策決定者向け概要（SPM）の解説

Summary for Policymakers (SPM) of the IPBES
thematic assessment of the underlying causes of
biodiversity loss and the determinants of
transformative change and options for achieving the
2050 Vision for Biodiversity



評価の対象、枠組とSPMの構成

- IPBES地球規模評価報告書（2019）において持続可能な世界の実現に向けての社会変革の必要性と生物多様性の損失の直接要因・間接要因を特定。
- 社会変革を「**パラダイム、目標、価値観を含む、技術的、経済的、社会的要因にわたる、根本的かつシステム全体の再編成**」と定義。



- 世界各地域より42カ国、101名の専門家(うち日本人6名)が**7,000** にのぼる科学論文などの膨大な知見を分析。
- 3年間にわたり評価を実施、10,000以上の外部レビューのコメントに対応。
- IPBES第11回総会(2024年)で本体報告書を受理し、政策決定者向け要約(SPM)を承認。

評価内容

- 社会変革の決定要因、その実現方法、直面する可能性のある障壁について評価。
- 生物多様性に関する2050年ビジョンや持続可能な開発目標（SDGs）に沿って、**先住民や地域コミュニティ**のビジョンを含む、持続可能な世界の**ビジョンやシナリオ**、それらに向かう**経路**、そして社会変革を促進、加速、維持するための具体的な**行動の選択肢**、達成するために必要な**実践的なステップ**、社会変革に向けた**進捗状況を特定し、追跡する方法**について評価。

SPMの構成

序文及びセクションA～Cで構成

セクション A

社会変革は急務であり、必要であり、困難を伴うが、可能である。

セクション B

社会変革のための戦略と行動

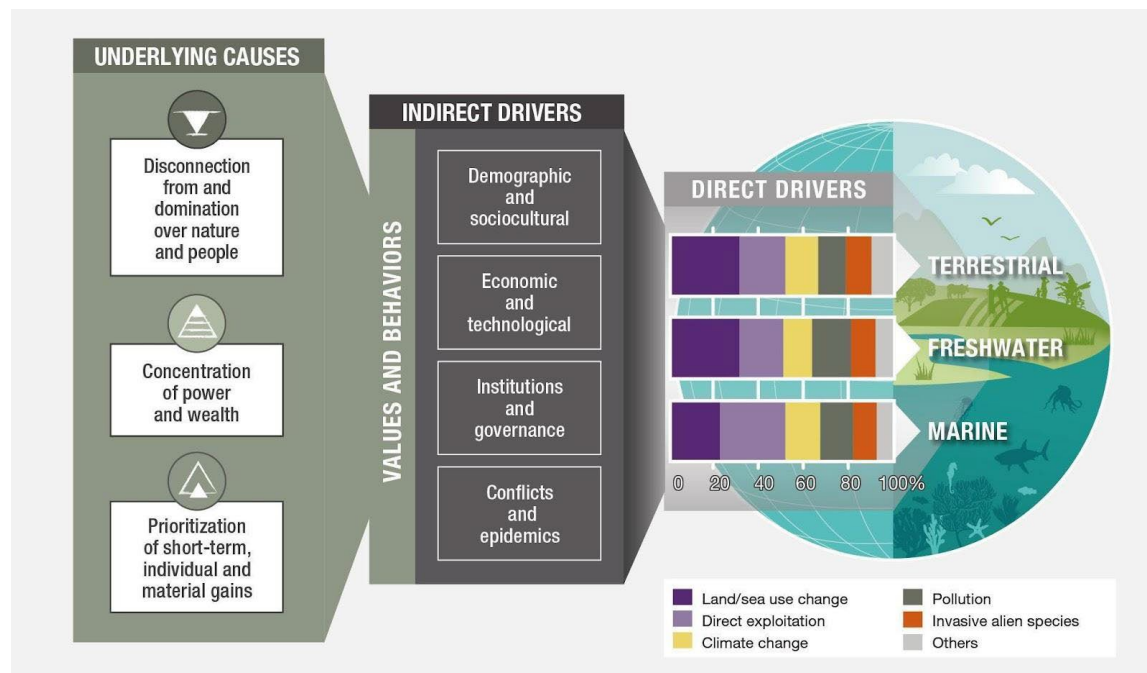
セクション C

社会変革を可能にする：
すべての人々の役割

A. 社会変革は急務であり、必要であり、困難を伴うが、可能である。

- 生態系機能の崩壊を防ぐために、**社会変革は急務**。地球規模の持続可能性を達成するための行動を遅らせることは、今行動を起こすことのメリットに比べて**コストが増大**
 - 生物多様性の損失と自然衰退の現在の程度と速度は、気候変動や汚染を含む、相互に結びついた複数の地球規模の危機と相まって、人間の福利と地球上の生命を深刻かつ不可逆的に脅かしている。
 - 生物多様性の損失と自然の衰退を食い止め、回復させるための行動を世界全体で10年遅らせることは、すぐに行動を起こすよりも**2倍の費用**がかかると推定。逆に持続可能な経済アプローチによって**ビジネスやイノベーションの機会を創出**の可能性。
- 社会変革とは、見方、構造、慣行における根本からシステム全体の転換を伴うプロセス
 - 見方、構造、慣行が交差する次元は人間によって創られたものであり、潜在的に変容する可能性がある。
 - 不確実性と創発を特徴とする複雑なシステムの中で、社会変革は適応的なプロセス。
- 根本的な原因は、生物多様性の損失と自然の衰退の間接的・直接的要因すべてに影響。
根本的な原因に取り組む
社会変革は、公正で持続可能な世界にとって不可欠。

図 SPM.1.生物多様性の損失と自然衰退の根本的原因、間接要因、直接要因



A. 社会変革は急務であり、必要であり、困難を伴うが、可能である。

- 生物多様性の損失と自然の衰退の根本的な原因に対処し、地球規模の持続可能性に向けた**社会変革の指針となる4つの原則**：(i)公平と公正、(ii)多元性と包摂、(iii)尊重と互恵的な人間と自然の関係、(iv)適応学習と行動
- 社会変革を実行する上での**5つの包括的な課題**：i) 支配関係、特に植民地時代に生まれ、広まった支配関係の持続、ii) 経済的・政治的不平等、iii) 不十分な政策と不適切な制度、iv) 持続不可能な消費・生産パターンおよび個人の習慣と慣行、5) クリーン・テクノロジーへの限られたアクセスと、体系的に統合されていない知識とイノベーション

- 課題に対処する**6つのアプローチ**

表 SPM.1. 社会変革に向けた6つの幅広いアプローチに関連する主な行動と介入策、そしてそれぞれのアプローチにおける先住民と地域の知識の役割。

APPROACHES	MAIN ACTIONS AND INTERVENTIONS ASSOCIATED WITH THE APPROACH	ROLE OF INDIGENOUS AND LOCAL KNOWLEDGE
System 	Interventions that alter the relationships and feedbacks that block or can help accelerate systemic change, including changes to the structure, rules and networks in a system, and the overall goals or underlying intent of the system.	Sharing and providing encompassing and interconnected views of human-nature relationships and complex relations among beings (material and non-material).
Structural 	Altering economic, social, political and cultural rules, either through governance interventions or through communities reforming predominant rules.	Challenging colonial structures and institutionalizing local governance for promoting and enhancing sustainable practices associated with Indigenous and local knowledge.
Inner transformation 	Relational activities that nurture human-other-than-human relationships; intra- and inter-generational relationships; self-other relationships and relationships with oneself leading to shifting inner beliefs, views and practices.	Highlighting spiritual, emotional, cultural, social and historical dimensions of self-other relationships to trigger and leverage inner potentials for transformative change.
Empowerment 	Fostering social movements and building grassroots networks, envisioning alternative pathways using critical tools, self-reflection and historically denied agency to gain recognition, representation, and rights in legal structures and other key arenas of power.	Asserting agency, power and rights of Indigenous Peoples and local communities to their Indigenous and local knowledge and overcoming historical legacies and marginalized situations.
Knowledge co-creation 	Collaborative research-action interventions that build individual and collective capacities to promote desirable futures through visioning, dialogues, reflection and feedback sessions, including sharing knowledge in accessible ways.	Collaboratively generating knowledge and co-designing new products, practices and solutions through an interactive process of weaving knowledge systems.
Science & Technology 	Use of new technologies and innovations, in conjunction with inclusive innovation processes; increased funding for research, education, outreach and science-policy interface.	Source of knowledge for science, technology and innovation, which often draws on traditional knowledge, associated practices and biological resources that have been preserved and maintained through Indigenous and local knowledge.

B. 社会変革のための戦略と行動

社会変革を実現するには、社会変革の原則を体現し、公正で持続可能な世界のビジョンに向けた文脈に特化した戦略と行動によって課題を克服することができる。以下の**5つの戦略**が特定された。

戦略1：自然と人々にとって価値のある場所を保全、回復、再生（生物文化保全アプローチ）

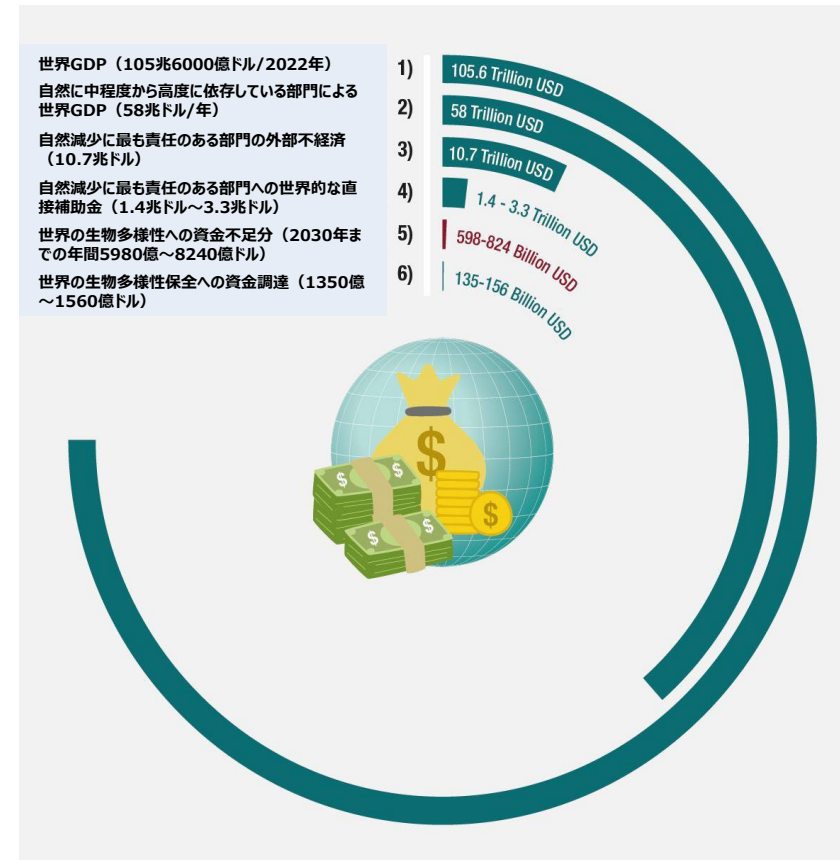
- 1.1 重要な生物文化遺産の保護（関係的価値を醸成し、人と自然が反映できる場所を保全維持）
- 1.2 生物多様性の法的保護の強化（自然の権利を認識した新しい法的保護）
- 1.3 多様な価値に基づく保全（自然の多様な価値に基づいた保全）
- 1.4 再生システムへの転換（人間が自然を搾取するのではなく、ともに再生的なサイクルで共進化する）
- 1.5 統合空間計画の推進（ランドスケープレベルでの効果的な保全手法の確立ために空間計画・政策の実施）

戦略2：自然衰退の最大の原因となっている部門において体系的な変革を推進

- 2.1 直接搾取の規制（生物の直接利用を規制）
- 2.2 変革の枠組みにテクノロジーの組み込み（化石燃料→再生可能エネルギー）
- 2.3 金融の世界的な持続可能性（自然を保全する資金の流れを作る：右図参照）
- 2.4 市民社会のイニシアティブを支援

戦略3：自然と公平性のために経済システムを変革

- 3.1 革新的な経済ツールの主流化（例：税金、補助金、生態系サービスに対する支払い等による積極的なインセンティブの導入）
- 3.2 ウェルビーイング経済への公正な移行を支援（真のコスト計算と環境外部性への課税し、生態学的に不平等な取引を緩和）
- 3.3 金融システムの変革（世界的に資源への社会的・生態学的に公平なアクセスを促進するメカニズムの創出、例：タックスヘイブンの段階的廃止、資源収益への課税、汚職の根絶）
- 3.4 成功の新しい評価基準を採用（GDPから人間福祉や環境への影響を考慮した包括的な指標へ）



図SPM.7：世界の持続可能性をめぐる経済状況：自然との相互依存と保全の資金ギャップ

B. 社会変革のための戦略と行動

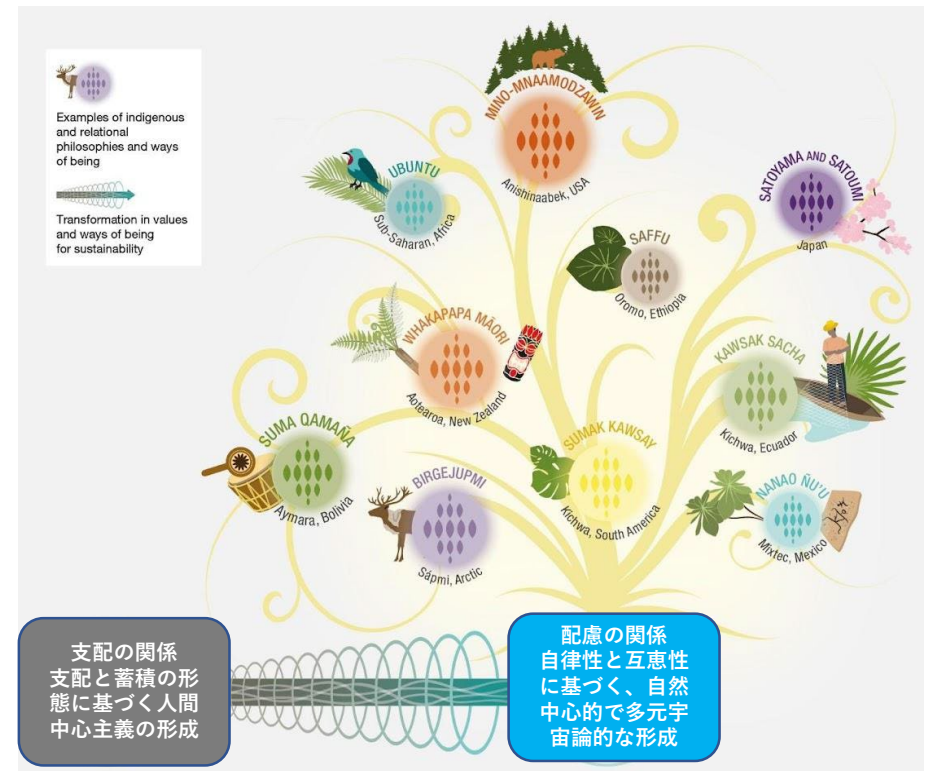
戦略4：統合性、包摂性、説明責任、適応性を備えたガバナンス・システムへ変革

- 4.1 統合ガバナンスの推進
- 4.2 包摂的ガバナンスへの関与
- 4.3 確実な多国間行動（政策や規制においても、貿易協定を反復的かつ透明性をもって評価・改善することで、行為者に説明責任を負わせる）
- 4.4 適応ガバナンスを通じた学習の強化（常に新たな状況に適応し、学習を続けることで社会変革のダイナミズムに適応できる）

戦略5：人と自然の相互関係を認識するための見方や価値観への転換

- 5.1 自然とのつながりを促進（人や自然に対して尊重し、互惠的な関係であることを認識する）
- 5.2 新しいナラティブによる文化の転換（人は自然の一部であり、自然と完全に相互依存しているという理解を反映したナラティブを育む）
- 5.3 社会規範の変化（人と自然の結びつきを強めるために、望ましい行動の可視性を高め、的を絞った政策手段を展開する）
- 5.4 自然を包摂した考え方や行動を促進するための学習の推進（共感と配慮、自然鑑賞、システム思考、学際的学習等を学校カリキュラムに取り入れる）
- 5.5 知識の共創（先住民や地域の知識を含む様々な知識体系を享受し、人と自然の関係性が支配から配慮の関係へ）

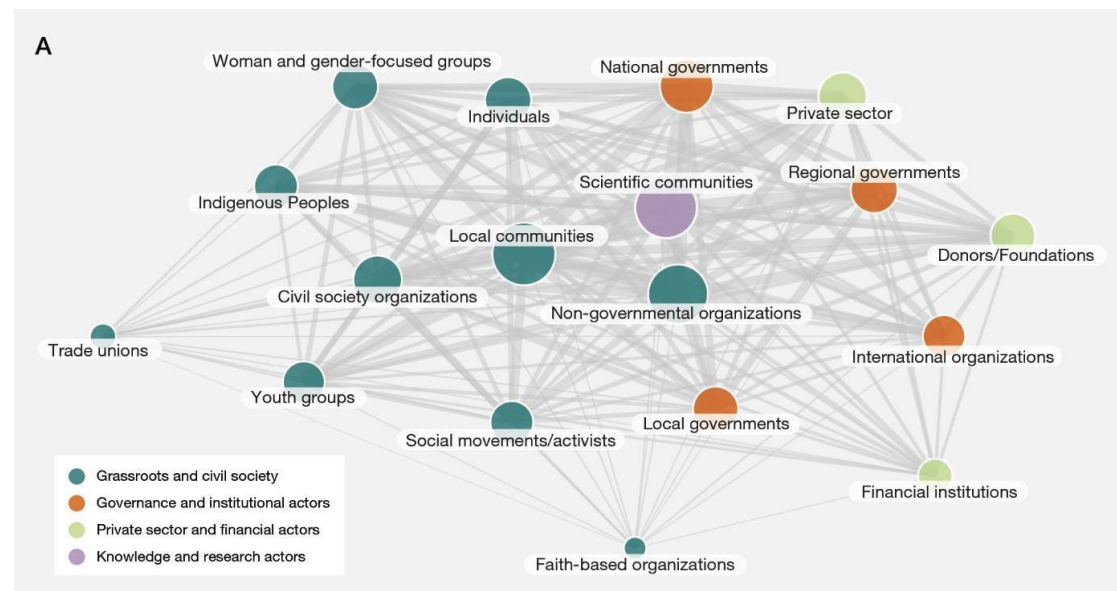
図SPM.8. 先住民の哲学と関係性の在り方の例



c. 社会変革を可能にする一すべての人の役割

- **自然と人間にとって持続可能な世界のビジョン**は、我々の価値観と世界観によって形成されおり、社会変革のきっかけとなる重要なもの。**公正で持続可能な世界のために共有された変革的ビジョン**の5つのテーマが特定された：i) **再生・循環型経済**、ii) **コミュニティの権利とエンパワーメント**、iii) **生物多様性と生態系の健全性**、iv) **行動変容のための（人間と自然の間の）精神的な再接続**、v) **革新的なビジネスとテクノロジー**
- **関係的価値が不可欠**：人と自然の相互依存関係、**人間以外の生命体の主体性や配慮の倫理**を認識し、社会においてポジティブなビジョンを共有。
- **多様な主体による協働**：多様な主体や主体・グループが、それぞれの能力、目標、文脈に基づき、社会変革において重要な役割を果たす。すべての関係主体とセクターがビジョンを描き、協働すること（**社会全体・政府全体でアプローチ**）が必要。公平と公正の原則を満たすためにバランスの取れた意思決定プロセスが必要。
- **政府**は**自然に利益をもたらす革新的な経済・財政手段**を導入（例：環境に有害な補助金を廃止・段階的廃止・改革、国際協力の推進）。
- **市民社会組織**は、生物多様性の損失や自然の衰退と闘い、重要な役割を果たす。**市民社会や環境保護活動家のイニシアティブの保護や支援**が必要。

図 SPM.10.さまざまな主体・グループが互いに密接に連携し、主体・グループ間の連携が深まったイニシアティブは、よりポジティブな成果を達成している。



より詳細な情報は:

IPBESウェブサイト

- 生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性2050ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別（社会変革）評価報告書

全資料掲載サイト

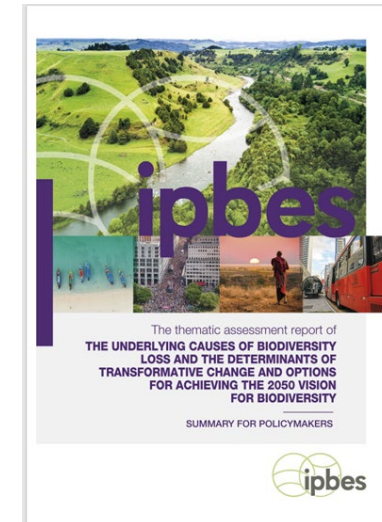
<https://www.ipbes.net/transformation-change-assessment>

- 政策決定者向け要約
[英語版] (48頁)

<https://zenodo.org/records/14513975>

[環境省和訳版] (48頁)

<https://www.iges.or.jp/en/pub/ipbes-tfc-spm-j/en> (完了後有効)



政策決定者向け要約
(英語・未校正暫定版)

政策決定者向け要約
(環境省和訳版) (完了
後に図を挿入)